

記述式問題の解答を簡潔・明瞭・的確に表現する力の育成

一言語活動を通じて、思考力・判断力・表現力等を育成する一

千葉県立千葉東高等学校・吉澤純一郎

1. はじめに

私は、生徒たちに記述式の答案をしっかりと書く力を身に付けさせたいと考えこの研究を行った。さらに、この記述式の答案の指導を通して言語活動の充実を図りながら思考力・判断力・表現力等の育成を行うことができないかと考えた。

2. 授業実践

定期考査後や進研模試終了後に記述式問題の答案の検討を生徒同士で行わせる等の実践を行った。進研模試を用いる際には発行元であるベネッセコーポレーションの許可を得て行った。

(1) 授業実践 1

定期考査の答案を利用して「どのような答案が記述として『よい答案』だと思うか」ということをグループで討論させながら考えさせた。「説明や解答過程が詳しく書いてある答案」、「綺麗な字で書いてある答案」という趣旨の回答をした生徒は約 80 人中 53 人いた。このことから生徒達はとにかく綺麗にたくさん書く必要があるということを考えているのではないかと感じた。

(2) 授業実践 2

定期考査において生徒が実際に書いた答案について、記述内容が必要最低限書かれている答案(A, C)、記述内容に問題はないが記述量が多い答案(B)、記述内容が不足している答案(D)を載せた。A~Dの答案を自分がよいと思う順番に並べさせ、その理由等自分の考えを記入させた。その後グループを作り検討しあう場を設けた。グループ協議後は 79 人中 76 人の生徒が A, C の答案を一番よい答案としていた。

(3) 授業実践 3

進研模試の記述式問題を再度各自で解いてみて、模範解答も参考にしながら、どんな記述が簡潔でわかりやすく説得力があるかをグループで討論し、グループで最も良いと考えた答案を 1 つ選んで、作成した以外の人にクラス全体に説明させた。

(4) 授業実践 4

進研模試の模範解答を利用して、採点基準を考えさせることを行った。採点基準を考えることで、必ず記述しないといけないことを選別することが

できると考えた。さらに、採点者側の立場に立つことで、答案をより客観的に見ることができ、記述に対する理解が深まると考えた。

3. 学力をつけるための日々の取組

記述式答案をきちんと書けるようになるためには、当然その前提として当該問題の解答を出せる学力がないといけないと考えた。そこで、毎回課している課題の内容を変えた。

4. おわりに

アンケート調査で、「過去数回の実践は記述答案を作成する上で参考になったか」と尋ねたところ、全員が「参考になった」または「やや参考になった」と回答した。さらに「過去数回の実践により記述に関する考え方が変わったか」と尋ねたところ、74人中72人が「変わった」または「少し変わった」と回答した。数回の実践により、記述するときの意識が変わったととらえてよいと思う。最初は「答えが合っていればよい」と考える生徒もおり、きちんと記述することに対する意識がない生徒もいたが、そのような生徒は減ってきたように私自身は感じる。図1、図2のように記述内容が見違えるようによくなった生徒もいた。今後もこのような取組を通して記述式答案をきちんと書く力の育成に努めていければよいと思う。

図1 生徒Aの答案(平成29年6月実施)

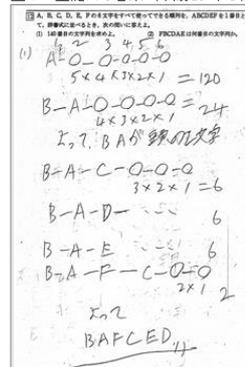
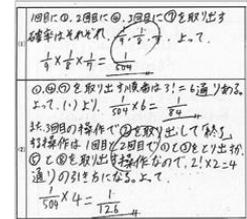


図2 生徒Aの答案(平成30年7月実施)



参考文献

[1] 文部科学省、「高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編」, 文部科学省, 2018